釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和６年（2024年）１月15日発行　VOL 42

組織で仕事をする

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

冬季休業もあと２日になりました。１月５日が本校にとっての「仕事始め」であり、３連休をはさんで９日から３学期に向けた各種業務の準備が本格的に始まりました。そして、明日は公立高校を受検する第３学年の生徒の登校日になっていて、明後日はいよいよ３学期始業式です。生徒たちの活気に満ちた声が校舎内に響き渡り、再び充実した日常が学校に戻ることに期待する一方で、教職員はもとより、保護者や地域の皆さんに対しても多種・多様な業務を依頼することが想定され、申し訳なさを感じているところです。そんな皆さんの気持ちが少しでも楽になればと考え、「組織で仕事をする」ことについて共通理解できたらと思います。

私は、2007年（平成19年）４月に北海道立教育研究所に異動になりました。研究研修主事として教育開発部という部署に配属されました。初めて任された仕事は、ある研修事業の開会式における教育開発部長の挨拶文の作成でした。先輩の研究研修主事から過去の挨拶文をいくつかいただき、それらを参考にしながら作成するように指示を受けましたが、全くできませんでした。任されてから１週間が経過しても何も出てこなかったので、直属の副部長が私を見かねて、次のように声をかけてくれました。

「冨田さん、初めからできるはずがないでしょ。６割ぐらいできたと思ったら上席（先輩の研究研修主事）に渡しなさい。そうしたら、その仕事の責任は冨田さんから上席に移ることになるでしょ。あとは上席と管理職（副部長、部長）で仕上げるから。私たちは組織で仕事をしていることを理解してください」

この言葉を聞いてかなり気持ちが楽になり、すぐに６割程度のできの挨拶文を上席に渡しました。それから３日後、完成した挨拶文が私の手元に戻ってきました。私が作成した６割の内容は、ほぼなくなっていましたが、中身の充実ぶりに感動したことを覚えています。そして、「組織で仕事をする」という意味を実感しました。

本校には、校長、教頭、事務職員、教諭、事務補、用務員、学習支援員、給食配膳員などの役職があり、年齢も経験年数も様々です。そして、教諭の中には教務主任や生徒指導部長、学年主任などの役割を担う教員がいます。学校行事などの取組が終わったら、フィードバックが行われ、成果や課題、課題に対する改善策等が担当者に返ってきます。担当者はフィードバックの内容を踏まえて、当該の取組を企画し、教務主任や学年主任等が内容を精査して精度を上げて教頭に回ってきます。本校は教頭をはじめ各主任等の尽力により「組織として仕事をする」体制が整備されています。

本校が組織として機能している理由は、主任等の存在です。各主任等が高いレベルのパフォーマンスを示してくれているからだと思います。今年は更に本校の組織機能の向上を図っていきたいと思います。そのためには、主任等を応援し支援する管理職の力量の向上が求められている、そんな自覚をもって校長職を遂行していきたいと考えています。